

ヒヤリ・ハット報告

平成31年4月1日～令和2年3月31日

種類	件数	%
自傷	0	0.0%
他害	0	0.0%
転倒	7	28.0%
誤飲	4	16.0%
その他	14	56.0%
	25	100.0%

生活介護

ヒヤリ・ハット報告詳細

日にち	種類	内容	対策
H31年4月			
4月2日	その他	降車し、そのまま走って自動ドアの所まで来て、1/3ドアが閉まりかかっている所にそのまま走ってきた為、左肩をぶつける。	ドアをしっかり開けておく 走らないよう声掛けをする
4月4日	誤飲	支援員が「何か食べている」と言うのを聞いて本人の所へ行き確認すると制作活動で作っていた紙を食べていた	異食行為のある利用者の再確認、支援にあたる際に気を付ける 他の支援員も全体を見て支援する 創作活動した際は作品を本人のロッカーに片づけるようお願いする（箱の準備）
R元年5月			
5月2日	その他	午後のおさんぽでさくら公園に行く 本職が他利用者と手引き歩行していると対象者が走り出し、公園の外まで出てしまう。	・外出前には「走らない」ことを約束していたが、最近追いかけてこが多く「遊び」の感覚が強かったのか、エスカレートしているため、約束や注意をする時は真面目なトーンでお話する ・しっかりしているからといって目を離さず常に支援員がついている体制をとる
5月2日	転倒	買い物に行って、店→駐車場までの手引き歩行で移動中、右足が縁石にぶつかって尻もちをつく。 対象者は地面につかずに支援員の上に乗った状態であった。	手引きをする支援員は後ろをよく見て確認して介助する。 一緒に行った支援員も危険だと思ったら、介助している支援員に声掛けする。 いつものルートを歩いて、近道をしない。
5月3日	その他	10時になり、課題の支度をしようとして、机を自ら出そうとした際、机の足に付いている棒に左足の甲をぶつける。	・机をだすのは職員が行う。 ・利用者に手伝ってもらう際は声掛け、机の持つ位置に配慮する。
5月9日	転倒	ブランコに乗っていて、スイングも収まってきた頃、突然お尻から滑り落ち尻もちをつく。	・背中を押しすぎない ・座面の確認 ・乗っている途中もお尻の位置を確認し、ズレていたら直す
5月10日	その他	調理実習中、マスクを噛んでいて歯ぐきから出血する。（左上の八重歯）	・職員の注意不足 ・調理の方ばかりに集中するのではなく、利用者から目を離さず周囲もよく見て対応していく ・中央に向かい合うように職員利用者を配置する

5月12日	その他	多目的室で他利用者とDVDを見ていた時に最初は離れていたが急に前に来てテレビの下に黒いコードが3cm位出していたのを引っ張る。DVDデッキが落下して画面に当たって画面が傷ついて、映像に縦の線が入る。	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ、デッキの線はきれいにまとめて利用者が触っても、テレビデッキや台の上に乗っているものが落下しないようにする。台のDVDの置き場、整理整頓、置き場所を指定する。 ①線を結束クリップでまとめる ②線をゆるみの無いように壁や台に這わせて布のガムテープでしっかり固定する ③デッキは動かないように金具などに固定する ④テレビも本人、他利用者が揺らす為、隙間に何か詰めて動かないようにする。又は金具などで固定する
5月26日	その他	他児のクールダウンの為外に出る。玄関の施錠と扉を閉め忘れた為、本児が扉の前まで出る（会談前）そこで職員が引き戻す。	<ul style="list-style-type: none"> ・施錠を徹底 ・静養室にも鍵をかける（本児がいる場合）
R元年6月			
6月12日	その他	本人がDVDプレイヤーのコンセントをつけようとした際カバー（エンピ板）の淵で右手第二指の第二関節下をすり、皮がむける	<ul style="list-style-type: none"> ・カバー（エンピ板）に保護テープを貼る
R元年7月			
7月5日	その他	テレビ近くで座っていた利用者が壁などを使って一人で立ち上がり、アクリル板上部（DVDがある辺り）を叩き壊す	<ul style="list-style-type: none"> ・アクリル板にひび割れあり、養生テープで補強
7月6日	転倒	ギャラリーを歩き、座らない為手すりにつかまったまま水分補給、休憩を行っていた。すると、近くで水分補給をとっていた支援員に向かって、手すりから手を放し歩き始めたので、すぐに支えに行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩時は座る ・手すりから手を離すこともある事を周知し、目を離さない
7月24日	その他	リュックにタオル、水筒、療育手帳を入れ携帯していた。帰所後、タオル等は取り出すが、療育手帳があることに気付かず、そのままリュックを洗濯籠の中に入れ、別の職員がそれらを洗濯機にかける。利用者が帰る際持ち物点検をしたところ、療育手帳のポーチがないことに気づき、すぐに洗濯機を停止、リュックの中を確認すると療育手帳が入っているままであった。	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳などの貴重品類はリュックに入れず、職員が肌身離さず携帯できる鞆等に入れ、帰所後はすぐに戻す。 ・中身確認の徹底
7月31日	転倒	車に乗車する際職員が利用者の腕を掴みながら一緒に歩いていた。他職員が帰る所で、本職も同職員に挨拶しようとして利用者から目を離してしまったところ、地面の消雪パイプにひっかかり転倒してしまった	<ul style="list-style-type: none"> ・「慣れ」ず、集中して支援する（特に歩行不安定な方なので） ・車の停める位置を消雪パイプより前にする。
R元年9月			
9月3日	その他	他児使用の車用座布団を送迎車にセッティングの為サチ玄関から出る。セッティングしおわり戻ろうとしたところ利用者が同玄関より飛び出してきた	<ul style="list-style-type: none"> ・職員がルームに一人しかいない時に外に出る時は、玄関ー静養室間の施錠を一声かけてから行う ・本人のテンションが高く動き回るような時はルームに2人以上いるようにする。 ・自動ドアが閉まるまできちんとみておく
9月22日	誤飲	本職が利用者に誘導され簡易ベッド上でダンスの利用者を見守りしていた間、本利用者が1人ソファで座っていた。その時ズボンの中に手を入れ、その手を口元に運ぶ姿を認めたため、かけより口腔内確認すると、パットの切れ端様の物が入っていた	<ul style="list-style-type: none"> ・本利用者を一人にさせない ・自分がつけなくなる時は他職員に声をかけお願いする

9月23日	その他	帰りの会后、本人の左腕を見た所、引っかき傷あり。サチではDVDを見て過ごしていただけの為、ピンポン職員にも聞いた所原因不明（本日は本を読んでいません）	
R元年10月			
10月21日	転倒	13時からお散歩のため外でバギーに乗っていたところ身体を反らして、右足を右足のアームレストに乗せ、後ろに倒れそうになった。	<ul style="list-style-type: none"> ・バギーに乗る前にリクライニングを直してから乗っていただく ・足を出していたらその都度直す ・対応できそうになかったら他の職員に代わってもらう。
R元年12月			
12月16日	転倒	外での散歩時、職員と腕を組み歩行していた。その際に左足が下水の蓋の隙間に入り、ゆっくり転倒する	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩ルート見直し ・その場で患部確認 ・保冷剤を持つ
12月23日	誤飲	ルーム内にて携帯電話を口にくわえているのを発見	・携帯は体温計などが入っている状差し1番上にしまふ。又はかばん内
12月23日	その他	本職が本利用者の乗った車椅子を介助しながら、他職員一名と利用者2名と共にゴミ拾いに出る。そして、平坦な道だと勘違いし、車いすのブレーキをかけないまま手を放し他利用者にゴミの教示をしていたところ、クリープ現象で動いてしまった。	どんなところであっても目を離さない。離れる場合はブレーキをかけ他の職員に声をかける等の連携を図る。
R2年1月			
1月20日	その他	調理の買い物に行き、レジを待っている際、他利用者の横で立位をしながら待っていた。その際、他利用者が本人を引っ張りそのままバギーの方に倒れ、ひじおきの所に右頭部をぶつける。（ゆっくり）	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士を離す、又は職員が間に入る。 ・危険がある事を忘れず、本人に付く場合は注意する。
R2年2月			
2月6日	その他	送迎車へ乗車させる際、職員がリュックを下すと雪めがけて走りだしてしまう。また、雪を食べようとするが、職員の静止で異食は防いだ。	<ul style="list-style-type: none"> ・荷物係を配置しているためトランク付近でリュックを預かるのではなく、玄関の所で荷物は預かり、利用者の乗車誘導を行う。 ・誘導を行う際は、しっかりと手をつなぐ。
2月28日	転倒	13時からの散歩に出ようと玄関から出て、出しておいた車椅子に座らせようとした。車椅子の向きが逆だったため、本人から片手を離して車椅子の向きを変えようとした際、バランスを崩し尻もちをつく	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で行わない ・片手を離すときは本人から目を離さない
R2年3月			
3月1日	誤飲	本児が机上にあった消毒スプレーに口をつける	利用者の手の届かない所に保管することを徹底する。